

概要版

郡山市第三次 環境基本計画



郡山市イメージキャラクター
「がくとくん」

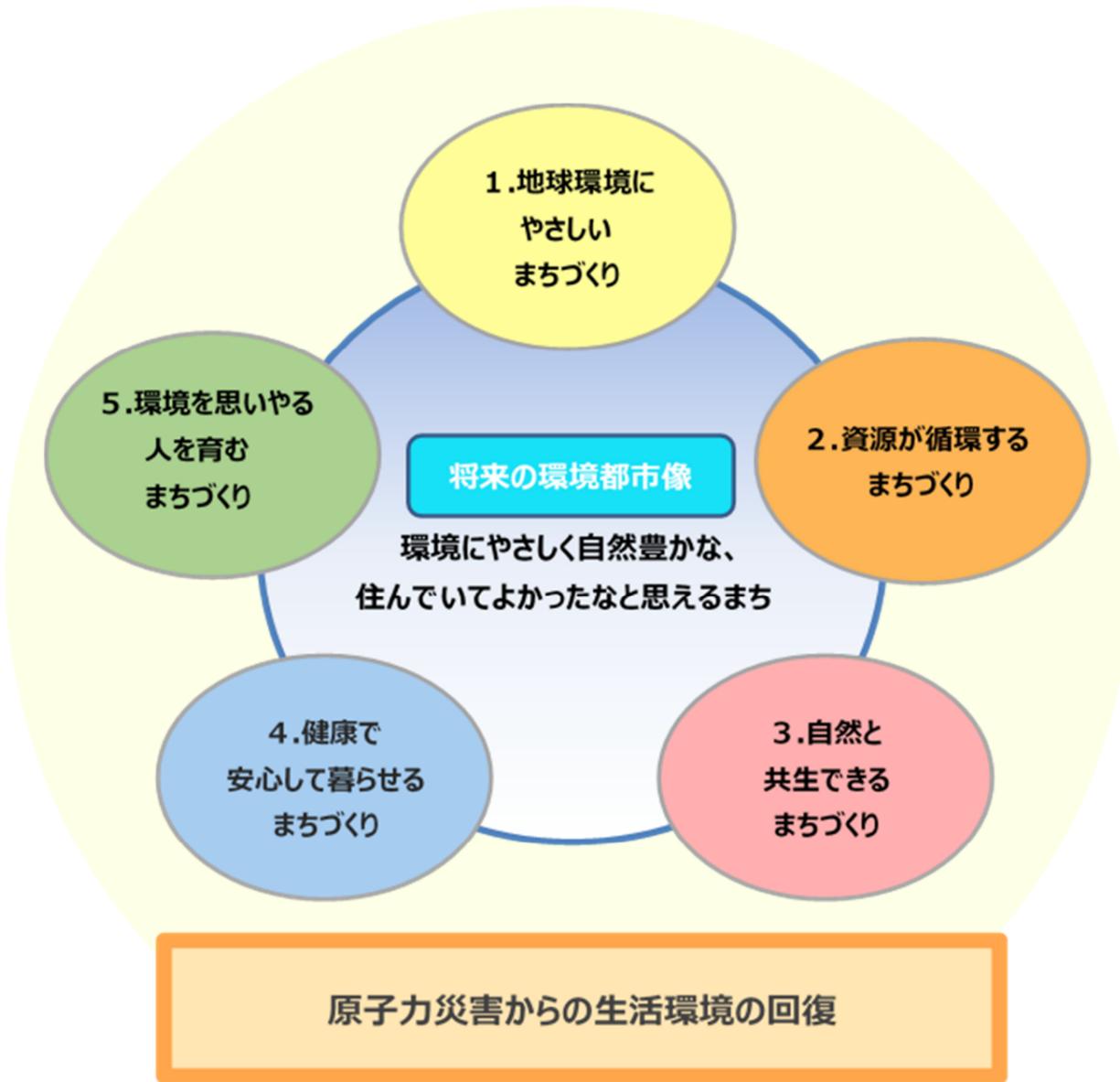
郡山市が目指す、
環境を考えた まちづくりの目標

環境にやさしく自然豊かな、
住んでいてよかったなと思えるまち

2018年度～2021年度

計画の位置付けと、 目指すまちづくりに向けた取り組み内容

「郡山市環境基本計画」は「郡山市環境基本条例」に基づき、市の環境行政に関する施策を総合的かつ計画的に推進していくための計画です。
「郡山市第三次環境基本計画」の目指すまちづくりとその達成に向けて、各分野への取り組みを5つの柱として定め、原子力災害への対応を土台として位置付けています。



取り組みの柱1

地球環境にやさしいまちづくり

地球温暖化を防ぐために、エネルギーを大切に、一人ひとりが身近なところから実践するまちづくりを目指します

- ① 気候変動への対応
- ② エネルギー対策

取り組みの柱2

資源が循環するまちづくり

資源を有効に循環させる地域づくりのため、限りある資源を大切にすまちづくりを目指します

- ① 資源の循環的利用
- ② 廃棄物の適正処理

取り組みの柱3

自然と共生できるまちづくり

豊かな自然や多様な動植物を将来に引き継げるよう、自然と共に生きていくまちづくりを目指します

- ① 自然環境の保全
- ② 自然災害の防止と抑止

取り組みの柱4

健康で安心して暮らせるまちづくり

身の回り的大気、水、土壌などを住みよい状態にして、健康で安心して暮らすことができるまちづくりを目指します

- ① 大気環境等の保全と改善
- ② 水環境等の保全と改善

取り組みの柱5

環境を思いやる人を育むまちづくり

みんなが環境を考え環境にやさしい取り組みを進めるよう、環境を思いやる人を育てるまちづくりを目指します

- ① 環境教育・環境学習の推進
- ② 環境保全活動への支援

原子力災害からの生活環境の回復

2011(平成23)年3月11日に発生した東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故以降、未来を担う子どもたちの安全と安心を第一に考え、除染をはじめとした各種施策を取り組んできました。今後も、誰もが安心して暮らせる生活環境の回復を目指します。

取り組みの 柱1

地球環境にやさしいまちづくり

気候変動による影響と対策

地球の気候が変動することにより、それまでの生き物が生息する場所が変わる、または失われる、突発的な雷雨等の気象現象が増える、氷河の溶解や海水温の上昇により、海面水位が上昇し、土地が水没する、農作物の収量が減少し、食料不足になるなどの深刻な影響が予測されています。こうした影響を防ぐため、二酸化炭素をはじめとした温室効果ガスの排出を早急に減らすことが求められています。



出典)環境省「地球温暖化の日本への影響 2001」
国立環境研究所 江守正多「地球温暖化の将来予測と影響評価」

エネルギーの有効利用



郡山市本庁舎に設置された水素ステーション・燃料電池自動車と太陽光発電設備

日本では使われるエネルギーを作り出すときに、石油、石炭、天然ガスといった燃料を多く燃やすため、地球温暖化の原因となる二酸化炭素が地球の大気中に多く排出されています。

したがって、地球温暖化を防止するため、無駄なエネルギーの利用をやめることや、よりエネルギーの消費が少ない製品を使うことが大切です。また、太陽光、風力や水素利用などにより、二酸化炭素を排出しないで、エネルギーを作り出せる設備を増やし、二酸化炭素の排出量を減らしていくことも重要です。

「COOL CHOICE(クールチョイス)」とは、地球温暖化を防ぐための「賢い選択」のことです。

私たち一人ひとりができることから取り組んで、地球温暖化の防止につなげましょう。

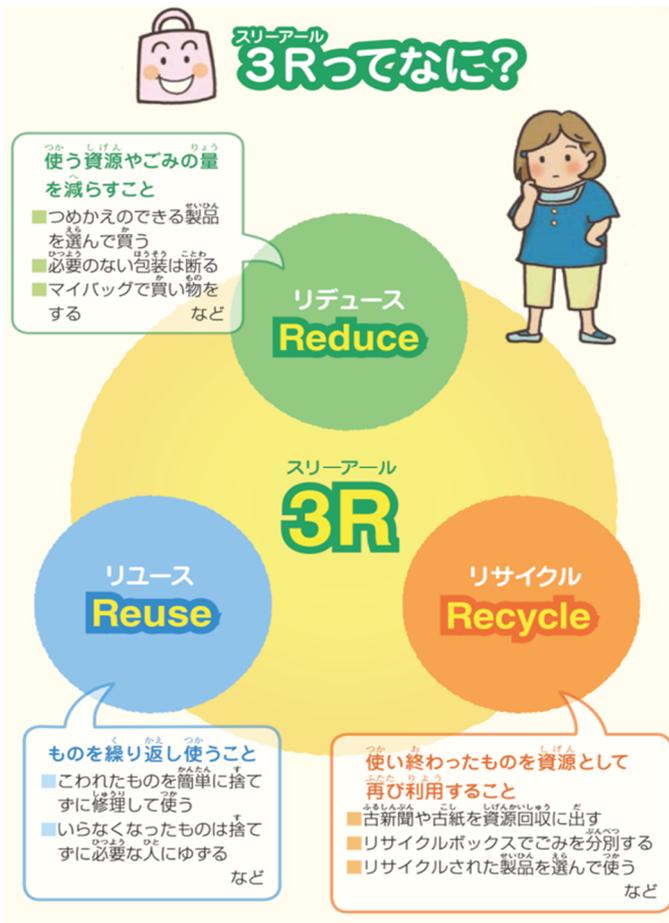


未来のために、いま選ぼう。

取り組みの柱2

資源が循環するまちづくり

3R など資源の有効活用



出典)環境省 3R まなびあいブック

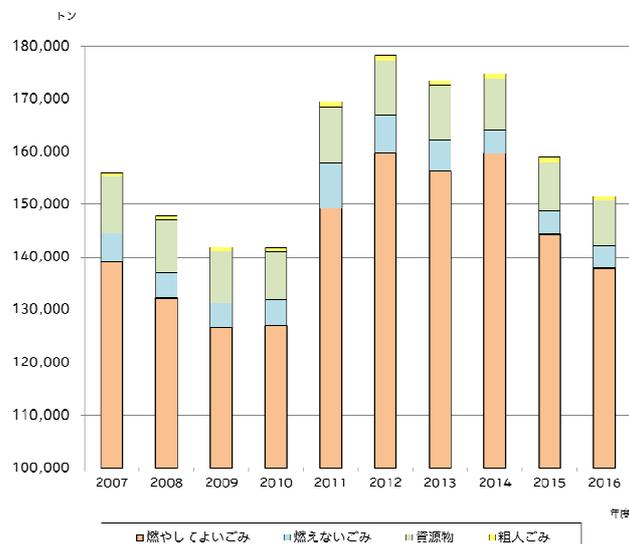
地球上の資源は限りあるものです。したがって、こうした資源を有効に活用することがとても重要です。国全体で、資源(自然、もの、人材など)を有効にサイクル(循環)させる仕組み作りを進めています。3R(スリーアール)は、これに向けた大きな取り組みの一つです。

- ① 発生抑制
(リデュース(Reduce); 減らす)、
 - ② 再使用
(リユース(Reuse); 繰り返し使う)、
 - ③ 再生利用
(リサイクル(Recycle); 再資源化する)
- の3つの R の頭文字をとったもので、資源を有効に循環させる社会作りに向けて大切なキーワードとなっています。



ごみをきちんと処理する

郡山市のごみの量は年々減少してきていましたが、東日本大震災の発生による震災関連のごみが増え、2011年から増加しました。その後、年々減少していますが、震災前の量には戻っていません。ごみをきちんと分別して出すことやポイ捨てなどを減らすことで、排出されるごみを減らす努力をみんなで続けていきましょう。

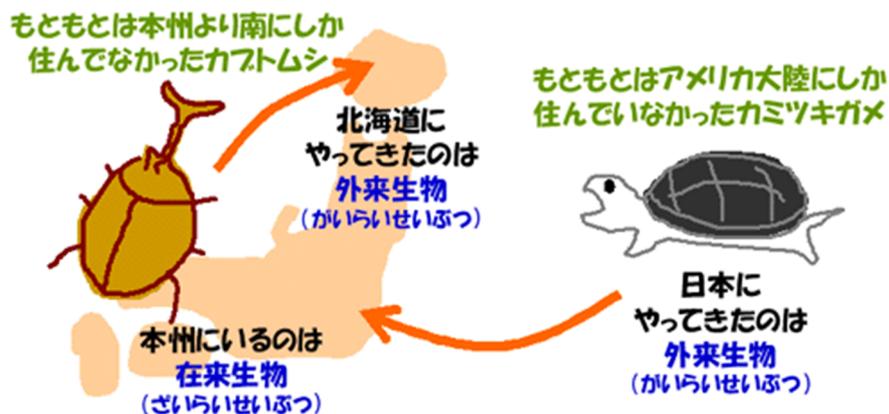


取り組みの 柱3

自然と共生できるまちづくり

自然を守る

郡山市は、山林や原野が市の面積の約半分を占める、緑豊かな環境となっています。こうした豊かな自然は、生き物の暮らしにとってもより良い環境となっています。一方、これまで郡山市に生息していなかった、外来の動物や植物が、最近では市内にも入り込んできています。市内の独自の自然を守るとともに、外からの動植物を持ち込まないようにしましょう。



出典) 環境省「こどものページ」

自然災害から人の生活を守る



急激な豪雨による道路の冠水

自然は、その豊かな緑などにより、生き物の暮らしをより良くし、また人の生活に安らぎを与えてくれます。一方、災害が起これば、自然は人の生活にも大きな損害や影響を与えることとなります。最近では、例えば急な豪雨による、道路の冠水や、建物などへの浸水被害が多く発生してきています。

このような被害にあわないよう、郡山市では防災に関する情報の発信や豪雨に強いまちづくりを進めています。その一方で、市民の方も防災に関する知識や意識を高めて、災害が発生した時の備えを進めることが大切です。



取り組みの 柱4

健康で安心して暮らせるまちづくり

きれいな空気を保つ



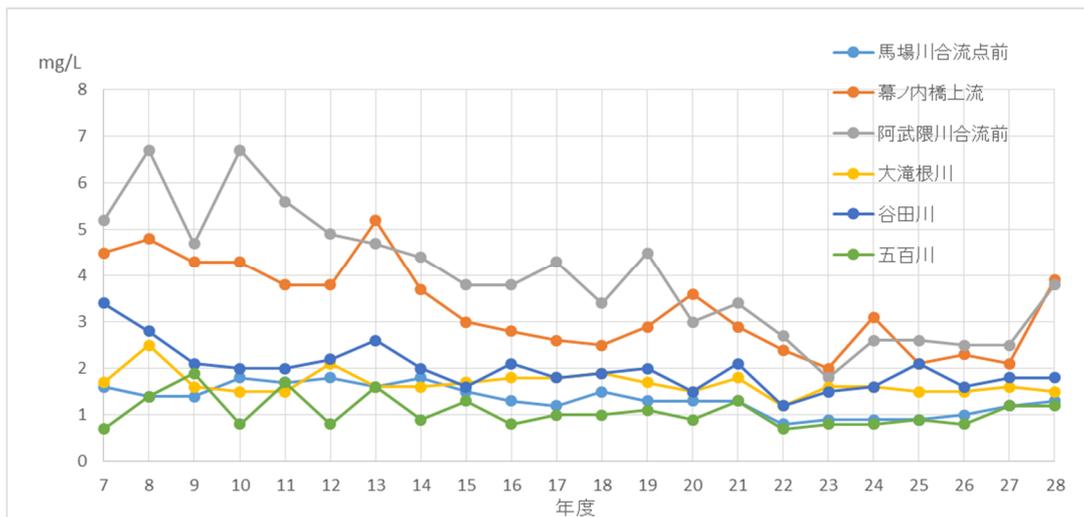
光化学スモッグ発生の仕組み

出典)環境省「ECO 学習ライブラリー」

有害なものを含まない、きれいな空気は、人の健康に必要なだけでなく、すがすがしい気持ちで暮らす上でも重要です。郡山市では大気の状態を定期的に測定していますが、ほとんどの項目は基準を超えない数値で、比較的きれいな空気が保たれています。一方、光化学スモッグを引き起こすと言われている光化学オキシダントについては、基準を満たしていません。今後もきれいな空気を保つため、自動車からの排気ガスによる汚染を減らすなどの努力を続けていく必要があります。

川や湖の水を汚さないようにする

川や湖の水が汚染されていないことは、そこに住んでいる生物の暮らしに重要ですが、さらに、人にとってもきれいな水辺は安らぎを得るのにとっても大切です。郡山市の主な河川では、少しずつ水がきれいになってきています。家庭や工場からの汚水の排水をなるべく減らし、今後もきれいな水の環境を守り続けましょう。



郡山市の主な河川の水質(BOD)の変化(数値が高いほど汚染が進んでいる)

取り組みの 柱5

環境を思いやる人を育むまちづくり

環境の知識を深める

環境を守るためには、多くの人たちが環境について知り、関心を深めることが大切です。学校での生徒への環境教育を進めることに加えて、大人も含めて人生にわたって環境について学ぶ機会を作ることが大切です。郡山市では、「自然観察会」や「体験学習会」に加えて、再生可能エネルギーの施設やリサイクル施設を見学するバスツアーなどを実施し、環境を学ぶ機会を提供しています。市民の方もこうした機会も活用して、環境について深く学び続けていきましょう。



再生可能エネルギー施設見学バスツアー（沼上発電所）の様子

環境を守る活動に参加する



こどもエコクラブ活動の様子

環境を守る活動を効果的に行うには、市民や市が別々に取り組みを行うのではなく、みんなが共同で取り組みを進める必要があります。郡山市では、地域での資源物の集団回収や、子どもたちが、誰でも参加でき、地域の中で仲間と一緒に楽しみながら環境学習や活動をする「こどもエコクラブ」を通じて、地域の環境活動を進めています。

発行：郡山市生活環境課

〒963-8601 郡山市朝日一丁目 23-7

TEL: 024-924-2731 FAX: 024-935-6790

E-mail: seikatukankyou@city.koriyama.lg.jp

郡山市ウェブサイト: <http://www.city.koriyama.lg.jp/>